

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



牛伝染性リンパ腫対策について

牛伝染性リンパ腫(旧名:牛白血病)は、7月1日付の家畜伝染病予防法改定により名称変更された届出伝染病です。
経済的なリスクも大きく、日本でも問題となっている牛の病気の1つです。

● 農場内で拡げないためには

牛伝染性リンパ腫は、牛白血病ウイルス(BLV)が白血球の一種であるリンパ球に感染する事により、リンパ球の増加や全身性の悪性リンパ腫を引き起こす病気です。感染後に体内で抗体ができて、ウイルスはなくなりません。感染牛の多くは長期間無症状ですが、数%の牛では感染から数カ月～数年後に発症(リンパ節の腫れ、消瘦、眼球突出など)し、最終的には死亡します。年々発生頭数が増加しており(図1)、一見すると無症状でも、繁殖成績や乳量の低下、他の感染症の増加、と畜検査での感染判明による全部廃棄など経済的な損失が大きく、日本でも問題となっている牛の病気の1つです。ワクチンや治療法の研究が国内外で行われていますが、まだ実用化されていません。

BLVの感染ルートは血液・乳汁・垂直感染(母子感染)の3種類ですが、無症状感染牛の血液や乳汁でも感染します。「BLVを農場内で拡げない」ためには、血液や乳汁が付着する器具・資材の扱いや、吸血昆虫対策、初乳管理などが重要です(図2)。

また、定期的な全頭検査により農場内の感染状況を把握し、感染

牛と非感染牛を区分して飼育エリアを分け、非感染牛から先に飼育管理します。更に、陽性牛を優先的に更新する「感染牛を減らす」中長期的

な取り組みにより、清浄化を図ります。獣医師の指導のもと、できる対策から実施していく事が対策の第一歩となります。

図1. 牛伝染性リンパ腫の発生頭数の推移 出典:農林水産省「監視伝染病の発生状況」より作図

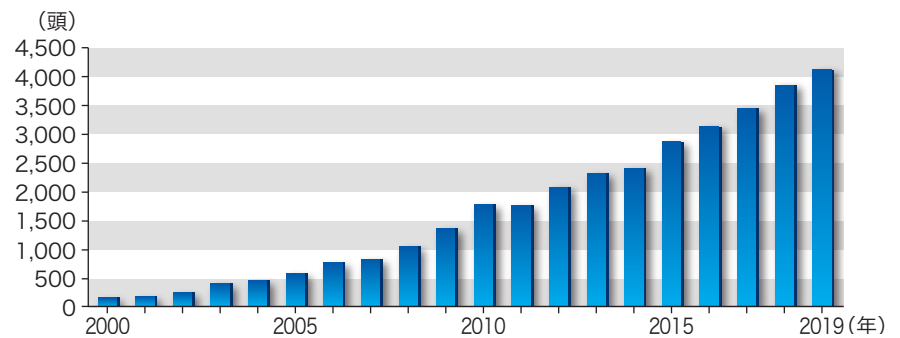


図2. 牛伝染性リンパ腫の対策(農林水産省『牛白血病に関する衛生対策ガイドライン』より作成)

① 農場内で拡げない対策

日常管理

感染していない牛から作業する

- 直腸検査・人工授精…直検用手袋、エコープローブを覆うビニールは1頭ごとに交換
- 搾乳
- 去勢、削蹄、耳標・鼻輪装着…直ちに止血/器具は1頭ごとに水洗・消毒
- 注射…注射針は1頭ごとに交換

牛の配置

感染牛と非感染牛を接触させない

- 感染牛と非感染牛を分けて飼育
- エリア間は空房にし、防虫ネットを設置

母子感染対策

- 分娩…分娩房は隔離/分娩房の洗浄・消毒を徹底/非感染牛から出産させる/感染牛から産まれた子牛は早期母子分離
- 初乳の管理…非感染牛の初乳/初乳製剤/感染牛の初乳は加温処理または凍結処理

吸血昆虫(アブ・サシバエ)対策

- 防虫ネット…牛舎まわり、感染牛と非感染牛の間
- 薬剤…忌避剤(ペルメトリン乳剤等)、殺虫剤(幼虫対策)
- トラップ…アブトラップ
- 環境整備…牛舎まわりの除草

② 農場内に入れない対策

導入牛対策

- 非感染牛を導入
- 導入元検査または導入後検査での感染の確認

③ 感染牛を減らす対策

感染牛の計画的な淘汰

- 農場の状況、血中ウイルス量、年齢、生産性などを考慮して優先順位づけ